



広島大学防災・減災研究センター
Resilience Research Center
Hiroshima University

広島大学呉サテライト設置記念
広島大学防災・減災研究センター主催公開講座

平成30年7月豪雨災害の現場から ～相乗型豪雨災害の研究最前線～



★日時:平成31年3月13日(水) 13:00～16:00

★場所:呉市役所本庁舎7階753・754会議室

★定員:70人(先着)

★参加費:無料

平成30年7月豪雨災害は、広範囲にわたる土砂災害や河川の氾濫が、同時多数的に発生し、西日本を中心に多くの犠牲者を出すとともに、交通や水道が寸断され各地で孤立や断水が起こるなど、地域社会に甚大な被害をもたらしました。

防災・減災研究センターでは、この新しい災害の現象を『相乗型豪雨災害』と名付けて、そのメカニズムの解明を進めています。

本講座は、研究者の目から見た被災地の状況と、最新の研究の状況をお伝えするものです。

1時限 13:05～13:55

『相乗型豪雨災害』の被害状況とメカニズムとは

土田 孝
防災・減災研究センター長



2時限 14:05～14:55

砂防の視点から『相乗型豪雨災害』に対する今後の取り組みを考える

長谷川 祐治
総合科学研究科 准教授



3時限 15:05～15:55

『相乗型豪雨災害』が交通にもたらしたものと今後への備え

神田 佑亮
呉工業高等専門学校 教授



お問い合わせ先

広島大学呉サテライト TEL 0823-25-5691 (平日8:30～17:15)



広島大学防災・減災研究センター
Resilience Research Center
Hiroshima University

広島大学呉サテライト設置記念
広島大学防災・減災研究センター主催公開講座

平成30年7月豪雨災害の現場から ～相乗型豪雨災害の研究最前線～

講義概要

1時限 13:05～13:55

『相乗型豪雨災害』の被害状況とメカニズムとは

土田 孝 (広島大学防災・減災研究センター長)

従来の防災・減災対策の弱点や限界が顕在化した『相乗型豪雨災害』。そのメカニズムを解明することが、今後の有効な対策に資すると考えています。研究者の目で、災害を引き起こした歴史的背景やメカニズム、避難行動のあり方などに迫ります。

2時限 14:05～14:55

砂防の視点から『相乗型豪雨災害』に対する今後の取り組みを考える

長谷川 祐治 (広島大学総合科学研究科 准教授)

広島県で発生した過去の土砂災害と今回の災害の降雨、被災状況、土砂移動現象を比較してその特徴や被害拡大要因を検証するとともに、今後検討が必要な土砂移動現象や取り組みについて紹介します。

3時限 15:05～15:55

『相乗型豪雨災害』が交通にもたらしたものと今後への備え

神田 佑亮 (呉工業高等専門学校 教授)

平成30年7月豪雨により広島呉道路、JR呉線が途絶され、広島～呉間の往来に深刻な影響が発生しました。なぜあのような混雑が発生したのか、そのメカニズムについて解説するとともに、今後の災害に備え、今何ができるのかを解説します。